理事長語録 7

講演会などでは聞けない理事長のお話
もったいないので書いちゃいます。

in shibushi 2019

「子どもたちと共に成長を実感できる教育を目指して」
私は、保育の「あたりまえ」から縛られない、子どものための保育を実践してきてきました。
「今目の前にいる子どもたちのために」という視点を大切にして「やってみよう、ダメならまた考える」という前向きな姿勢で「子どもから学び続ける」教育を継続し続けます。

私の園に今年２月、２歳の難聴で補聴器をつけている男の子が入園してきました。
はじめのうちは慣れない場所ということもあり、言うことを聞かず、目も合わませんでした。着替えや歯磨きもままならず、お散歩も嫌がり歩きませんでした。先生が話しかけてもそっぽを向いて、挙句の果てに補聴器を外してしまっていたのです。
ですが、先生たちは諦めませんでした。目を見て話しかけ、やりたいことは何か、夢中になれるものはないのか彼をじっと観察しました。根気よく教え、見守るの繰り返し。すると、彼はゆっくりながら、目をみるようになり、コンタクトをとり、いやいやと駄々をこねるのではなく自分の意思を示すようになりました。
生活面で補助することはなくなり、お散歩にも歩いてでかけます。
計算や、読み書きにも積極的に取り組むようになりました。ゆっくり、でも確実に一つ一つを乗り越えていくことに喜びを感じているのです。
先生はその子に合った方法を見つけ導いたのです。子どもの力は無限だと、信じて疑いませんでした。わずか４カ月でここまで成長した彼はこれからきっともっと伸びていくでしょう。これからが楽しみです。

そして今、引きこもりが社会問題になっています。これは私たち教育に関わて来たものとして責任を感じなくてはなりません。
日本の根幹に関わる幼少期の教育とは。
こどもを安全に見守る、その基本的なことに加え、この大切な幼少期とはどういうものなのか、将来のためにどういったことを育てて行かなければならないのか。そういったことを全てのこどものために考え続けるということが重要なのです。

世の中はどんどん成長し進化していきます。私たち教育者も成長し進化していかなければなりません。
教える側が成長しないとこどもは成長できないんです。
もっとこどものことを理解し、天が与えた子ども達の才能を発揮できる環境がどうすればつくれるのか。
考えていくことが大切です。
女の子と男の子は全く別の人種です。なのに同じ目線や感覚で育てていいでしょうか。
女の子には女の子の目線で、男の子には男の子の目線で育てる。
私たちは真剣に子どもたちに向き合い考えながら育てて行かなければならないのです。
その子に合った方法で育てていくことによってその子の能力が引き出されていくのです。
こどもたちの貴重な時間を無駄なく使ってほしい。
悩んだときは、聞いていいんです。どうぞ志布志に来てください。
進化し続ける姿を見に来て下さい。